

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番地10  
TEL. (0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子  
室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信

後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社



二階の書院

ご家族の皆さままでご覧ください

## 笑顔の世の中

翠巖 龍弘

今年のお正月早々、仙台で生まれたばかりの赤ちゃんが誘拐され多くの人々が大変心配しましたが、無事親元に戻され犯人も逮捕された事件は記憶に新しいところです。新潟日報の『日報抄』に「犯人はきつと赤ちゃんの笑顔を見て無事両親に赤ちゃんを帰そうと思いつたのではないだろうか、いやそう信じたい」と書かれておりましたが、赤ん坊

今年のお正月早々、仙台で生まれたばかりの赤ちゃんが誘拐され多くの人々が大変心配しましたが、無事親元に戻され犯人も逮捕された事件は記憶に新しいところです。新潟日報の『日報抄』に「犯人はきつと赤ちゃんの笑顔を見て無事両親に赤ちゃんを帰そうと思いつたのではないだろうか、いやそう信じたい」と書かれておりましたが、赤ん坊

今年のお正月早々、仙台で生まれたばかりの赤ちゃんが誘拐され多くの人々が大変心配しましたが、無事親元に戻され犯人も逮捕された事件は記憶に新しいところです。新潟日報の『日報抄』に「犯人はきつと赤ちゃんの笑顔を見て無事両親に赤ちゃんを帰そうと思いつたのではないだろうか、いやそう信じたい」と書かれておりましたが、赤ん坊

のこにこ笑うその天真爛漫の笑顔は、両親の疲れを癒し、子供から大人まで心を和やかにしてくれ、相手に純真の心を起こさせます。赤ん坊に限らず笑顔、笑いは大切です。西洋では古くからユーモアの文化が発達しました。ユーモアは殺気立った雰囲気や喧嘩をおさえ笑いをその場の人々に与えます。ユーモアは人間の作った素晴らしい智慧です。日本でも落語が人気がありましたし、現在はテレビでも多くのお笑い番組が放映され、人気があるようです。笑うことよって閉塞感から開放され、生きる元気を与えられるのではないのでしょうか。『おかめ』は人間の理想の顔だとも言われております。おかめのお面を見て怒る人はいません。こちらもしらさず顔を綻びます。理想と言われる理由は色々ありますが、一番大事なものは、額の両脇の方にある黒い点です。人間怒ると角が生えてくるそうです。顔を真っ赤にして怒る人、青ざめた顔

で怒る人、まさに赤鬼・青鬼です。おかめさんは怒りの象徴としての角を折り、二度と生えなくする為御灸をした跡が、この二つの点だそうです。怒らず相手に微笑みを与えてくれる「おかめ」まさに理想の顔です。平成九年に亡くなったノーベル平和賞受賞者でもあったマザー・テレサさんは、貧民の為に働くシスターたちに「笑ってあげなさい。笑いたくなくとも笑うの。笑顔が人間には必要なのよ。」と指導されていたそうです。笑顔は自分だけでなく、他人にも明るく、生きる勇気を与えます。安善寺婦人会「KAKA笑の会」は今年四年目になります。多くの人が笑顔で前向きに、争いのない、自分だけではなく、皆の幸福を願うての命名です。本来お寺は「学び・信仰をとおしての癒し・楽しみ」の中心の場所でした。本堂・新築された客殿を活用し、来られた方々が自然に笑顔になる様なお寺になることを願っております。

書物は、それが書かれたときとおなじように思慮深く、また注意深く読まれなくてはならない。



# 修行から伝導の道へ

見附市天徳寺住職 中野尚之

ご縁があり、平成十四年十二月十一日に横浜鶴見の大本山總持寺に出版部主事兼布教師補として上山させて頂いたとききました。ですから、住職とは名ばかりで、見附の天徳寺は不在住職の状態です。幸い師、父(昭和八年生まれ)が寺を護っており、ますので、檀信徒の皆さまには今のところお叱りを受けることは無いようです。

皆さまご存知の通り、大本山總持寺は方丈様のご修行なされた本山であり、現在は副住職の真弘さんが特僧としてご修行なさっています。実はこの安善寺様の季刊紙にペンをお許しいただいたのも真弘さんとのご縁あつてのことです。

私が居ます本山祥雲閣は、一般の皆さまに布教啓発と、坐禪指導を中心に勤める「布教参禅寮」という所です。真弘さんは布教参禅修行僧の寮長さんで、私は布教師という立場で、持ちつ持たれ

つ日々精進しております。

本山生活は不思議なもので、家族以上の密接な生活を送るため、いつの間にか親兄弟のような関係が育まれます。一般的な言い方をすれば、仕事も一緒、家も一緒、苦楽を共にする運命共同体です。

さて、私たちの本山生活も、自己の修行から伝道(仏道を伝える布教活動)という新しい勤めが展開しております。

その活動の中で、いま私が精力的に勤めているのが「幼児教化」ということです。具体的には、本山社会事業部で営んでおります「總持寺保育園」の年長クラスの早朝坐禅と、鶴見大學保育科付属三松幼稚園の年長クラスの坐禅会です。

両園ともに新年度の四月から指導を開始します。最初は皆落ち着かず、泣き出す園児まで居ります。しかし、一人ひとりこちらが我

慢をしながらじつくり観ていると、キョロキョロしてはいるものの、実は立ち上がりたいたい気持ちを頑張つて抑えていたり、みんなそれぞれ一所懸命に坐禅修行を実践しています。

園児の坐禅会では、こちらの方が教えられることが多い、勉強になります。例えば、私たちはとかく指導ということにこだわり過ぎ、大切な子供の立場ということをつい忘れ、押し付けで終わっ

てしまうということです。待つことの大切さや「自分で坐る」という意識をいかに向上するか、毎回こちらも真剣勝負です。

今まで本山の一般参禅者の指導では自己の法を確立した真弘さんですが、幼児となると勝手が違うようです。手探りで指導方針を確立しなければなりません。

アメリカ留学修行期間中以外は、常に幼稚園の指導にあたり、新たな伝導の道



ケイン・コスギさんへ坐禅指導をする真弘さん

を模索中の真弘さんです。

そんな私たちに思いもかけないお勤めが舞い込んできました。NHK教育放送の青少年・こども番組製作の協力依頼です。番組名は「からだであそぼ」。幼児から児童にターゲットをしばった内容で、月曜から金曜の朝晩二回の放送番組です。

このお勤めは真弘さんが担当することになりました。幼児指導を実践していることや、今年で六年になる本山修行のノウハウを生かせるといふことで、適任であると判断されたからです。

番組の主旨は「からだであそぼ」というタイトルでもわかるように、身体を遊びや生活の中で楽しく動かすという、健康と日常の作法などを幅広く取り上げたものです。

今回はタレントのケイン・コスギさんとあいちちゃん(二人が、本山總持寺にやってくる)の二人が、本山總持寺にやってくるというものでした。これについて本山の伝統的な作法や、細かい足の運び、しぐさ等、細部にわたり真弘さんが

指導と管理につきました。

曹洞宗の教えは坐禅修行を中心に、生活全般を正してゆく、「一時一時を大切に生きる」ということです。これが幼児、青少年に渡るまで日常に取り入れることが出来れば、心の問題にも大きく反映してくるはずだ。



茶をいただく作法を指導

これからの社会が平和で、安全な生活を護るためには、社会を構成する「人」を育むことが大切です。

「行」を重んじ、生活そのものを大切にすると宗門の教理をNHKの番組を通して、多くの青少年に伝える素晴らしい機会をいただきました。放送は四月頃予定です。詳細は未定です。

道徳的修養に要する努力の大部分は、自分の過去および現在の行為の生んだ不快な結果を認めるのに必要な勇氣にある。



# 【大本山總持寺 雲水日記】

## アメリカでの二ヶ月間の研修 (その二)

近藤真弘



グリーンガルチファームで生活している人々

アメリカに渡りひと月がたつた八月二十七日に、ロサンゼルスからサンフランシスコの郊外にあるグリーンガルチファームというところに修行の場を移しました。サンフランシスコの中心部から三十分ほどゴールデンゲートブリッジをわたり、海沿いにあるこのお寺は、

名前の通り広大なファーム(庭園)があり、ここでは観賞用の庭から始まり、多くの農作物が作られています。ここでは僧侶から一般人を含め幅広い年齢層の人が常時五十〜六十人生活しており、ファームでの作業はすべて自分たちで行っています。

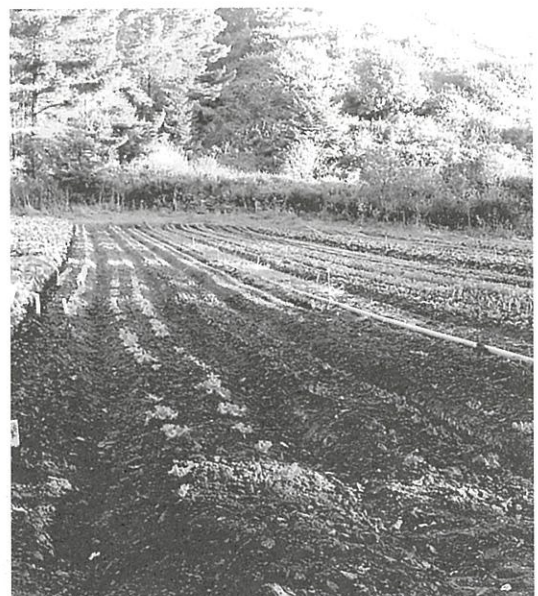
ファーム以外にも広大な敷地の中には牧舎を改造した大きな坐禅堂から図書館、食堂、茶室、十数人でも作業のできる厨房と、立派な施設がととのつていました。外には日本から運ばれたと言う大きな梵鐘もありました。

お寺の生活ですから当然朝は早く坐禅や朝のお勤めを行い、朝食を食べると一日のほとんどをファームの作業に費やします。日本のお寺と決定的に違うのは、お檀家さんがいないということ。ですからお寺の運営形態が違い、お寺を維持、管理するには他のことで収入を得るしかありません。ここでその手段として行われているのがファームで作った農作物を販売すること、ペンションのような宿泊施設を備え観光客を呼ぶことでした。

観光客に対する接客や、部屋の掃除、料理作りまですべてのことをお寺に暮らす皆で分担して行い、その合間に坐禅やお勤めなどのお寺の修行をします。

このお寺も初めの一ヶ月滞在したところと同じく、若者が多く生活をしていました。しかし前回と違うのは、ここで生活する若者は禅に興味がある人よりもここでの自給自足の生活に興味がある人が多く、長くいる人もいれば三日から一週間で帰る人もいました。

しかし、禅に興味が無くてもここに来る目的は「自己を見つめなおしたい」と言う人が多く、坐禅の時間になると皆が率先して坐り、お勤めでは皆でお経を読み、結果的には立派な僧伽が形成されていました。ファームでは肥料になる



すべて自給自足の生活なのです

堆肥頭作りから苗植え、雑草取り、収穫まですべてを自分たちで行い、毎回作業の指示が複雑で見よう見まねで、ここでも他の皆に迷惑をかけたが、本当に親切な人たちがばかりで、多くの人の優しさに触れることができました。特に英語が話せない私に、空き時間で英語のレッスンをしてくれた人もいました。

初めは孤独を感じ、一人である時間が多かったのですが、だんだんと打ち解け、途中からは週一回の休みに皆ですぐ近くの海岸で遊んだり、回りの山でハイキングをしたりと、修行の合間の時間をとても楽しく過ごすことができました。

この度の二ヶ月間の研修は終わってみればあつという間でしたが、確かに日本から伝わった曹洞禅をこの目で見て体で体験できたこの経験は、この先私が僧侶として進むうえで一生の貴重なものであり、かけがえないものとなりました。

總持寺では、今年もまた二名の修行僧が海外研修に行きます。海外との交流を深めるためにも、自己を高めるためにもこの研修が長く継続することを願います。

明日の考察!これ実に我々が今日において為すべき唯一である、そうして又総てである。

—石川啄木「時代閉塞の現状」—

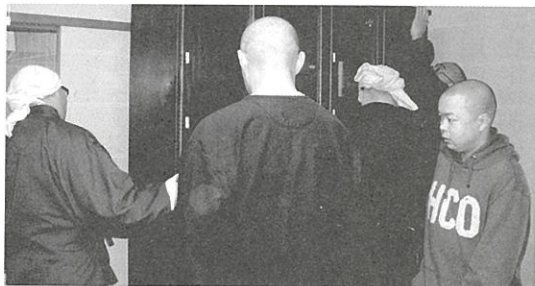


# 皆様のお蔭で 客殿が完成しました

完成第一号は、緑町の小池家のご法事でした。近頃には珍しく大勢のお客様（四十名）がお出でになったご法事でしたが、今までの建物からドアを開けた途端、木の香りが匂う客殿にまず「わー！木の香りがする」と口々に・・・椅子席のお部屋と和室に分かれ、久々にお会いしたご親戚の方々とお話が弾んでおられ



控室で待つお客さま



引越の手伝いの修行僧

たようです。四十名ものお客様ですから二本のポットのお湯もまたたく間に空になり、「折角の新しいお部屋でお茶の一杯も飲みたいから」と空のポットを持ってこられる一幕もありました。その後のお斎の席で「檀信徒の事を考えて本当に使い勝手の良い客殿ですね！」とお褒めの言葉を頂いたとの事、喜んでいただけで良

かったです。

三月六日から八日まで副住職の修行の時のお仲間（五名）が引越しの手伝いに駆けつけて下さいました。全員二十代の若者達、中には過って柔道で国体に参加した人も混じる中、工事中で本堂を避難場所にして、いた本棚・箆筒・等々大きなものばかりを手際良く



二階和室



竹の照明で統一された三階十畳の間

次々と運び、何と頼もしい限りでした。箆筒など中味を出さないで運ぶものからです、たまたまその場に居合わせた人達もビックリし

ておられました。その後の賄の方はご想像にお任せいたします。修行で何もものにも代えがたい良き友が沢山出来何よりです。

野蛮であるということは、すぐれたものを認めないということではないか。

—エッカーマン「ゲートとの対話」—

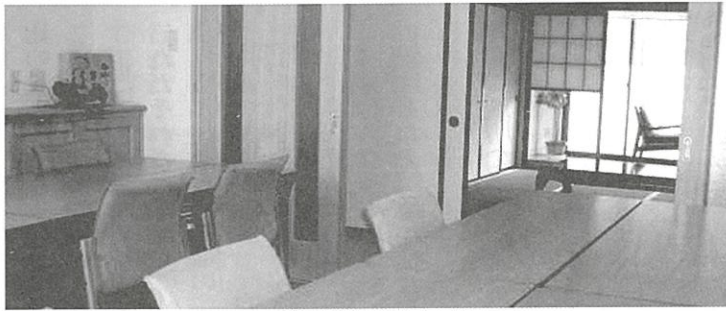




二階から見た階段



坐禅堂



一階の洋間から見た和室

一階の洋間から和室をみた写真です。廊下とそれぞれの部屋の仕切りはバリアフリーでそれぞれの戸を開けておけば、坐るほうが良い方と椅子の方が良い方とで一体で使える感じですよ。どちらの部屋も日中は電気をつけなくとも良いくらい明るい部屋です。ここは主に檀信徒の控え室・写経・俳句・お斎など一番利用する部屋だと思っております。



一階 和室



一階 洋間



二階トイレ

二階の照明はお檀家（東京在住）の近藤昭作氏の作品で統一いたしました。住職念願の座禅堂も二階に出来、四月から始まる坐禅会が楽しみです。  
一階・二階ともトイレ、簡単な台所もできましたので法要後のお斎にも利用していただけると思っております。  
これから涅槃会・お彼岸・冬の寒いうち休んでおりました各会も四月からはじまりますので新しくできました客殿を見ながら、是非お寺に足をお運び下さい。

武力によって敵を制する者は、その半ばを制するにすぎない。

—ミルトン「失楽園」—



# 読者からの便り

## 世界平和を祈る

長岡市中島●酒井美与吉  
八十歳になりました。私  
だつて若い日はあつたので  
す。五十余年前に作つた散  
文を記してみます。

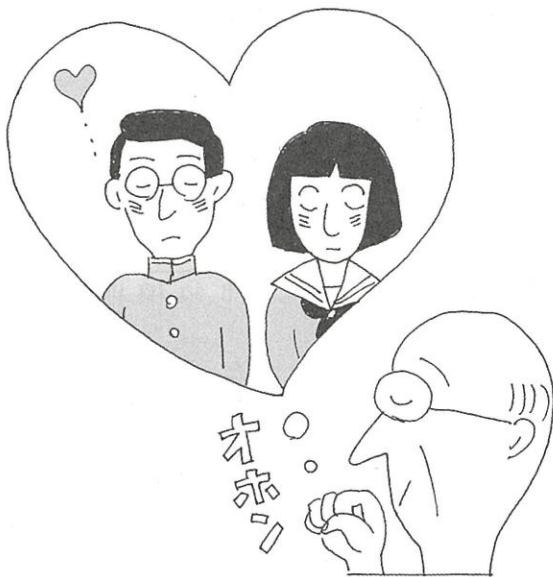
たぎる そんな生ぬるい  
ものじゃあない  
怒濤 正にそれだ  
それは本能か 感情か  
理性か

そんな事僕にわからない  
「七枝」網膜の底がつぶ  
やく

「馬鹿」理性が叫ぶ  
情が赤子のようにむずか  
る 機械的にはこぶ杯の  
酒が舌をさす 苦い  
ちきしよう 本能の健康  
な程 理性の確な程この  
戦いは深刻なんだ  
感性の怒濤が音を立てて  
理性の岸壁にぶつかる  
どっちでも良い 崩れて  
しまえ 心が叫ぶ  
たかが女一人に  
叫ぶ心に知がひらめく

ひらめく知を感性が 本  
能が 理性までが火の玉  
のようになつてもみ消す  
消えた知が不死鳥の様に  
甦る  
ちきしようどうして甦る  
んだ そんなこと僕には  
わかりやしない  
わかるのは今胸が虚の様  
に淋しいという事だけな  
んだ

と臆面もなく記してやつた  
比の詩です。  
あの人あなたの何  
「彼」彼は従兄よ  
ただそれだけ  
ううん そして兄なの  
そして父なの そして母  
なの そして先生にも姉  
にもなるの そしてそし  
て弟にもなるの  
だけどねえ「彼」私とし



もう一つ記します。これ  
は親友の恋人が「あなたの  
こと私の友達がね！あん貴  
女の何！って聞くの何と答  
えたらいい」と云うので、  
「じゃこれを見せてあげな

っかり抱き合う事出来な  
いの 私のLOVERが  
訪れると「彼」煙のよう  
に消えてしまうの だけ  
どLOVERが去ると私  
の心すべて彼の胸の中に

棲んでしまうの 私の心  
は本当に楽しいの  
ただそれだけ ただそれ  
だけの

若い人は祖父母も恋に泣  
き、仕事に泣いた日のあつた  
事を想い、老人は自分の若か  
つた日を顧みて、若い人達  
の心を汲んでやって、明る  
い世の中を作りましょう。

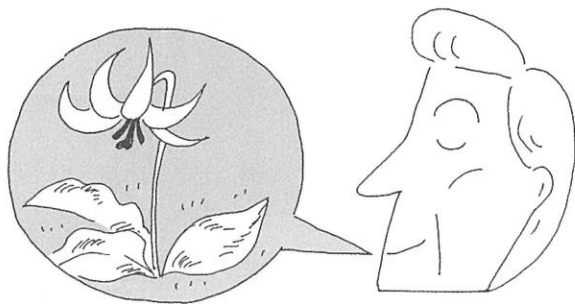
## 思い出深い

### 無碍智俳句の会

長岡市福住●目黒英美

昨年十二月、無碍智俳句  
会十五周年記念並びに、第  
三句集刊行を祝う会が持た  
れました。嬉しいことに私  
もお誘いを受けました。久  
し振りに方丈様、皆々様に  
お会いし、楽しい一日を過  
ごさせていただきました。  
平成二年九月、無碍智俳句  
会を作るお手伝いをさせて  
いただき、八年間皆様とご一  
緒に俳句を楽しみました。

安善寺様の俳句会は楽し  
いの一言に盡きます。俳句  
だけではなく、句会後の茶  
話会では、ご多忙な方丈様よ



寺涼し ひとし  
地震の傷繕ひ終へし  
盆の寺 冬子  
激震に倒れし墓に  
秋の雨 竹子  
掃苔や戌辰戦士の  
眠りをり 豊子  
盆支度青年僧の  
白たすき 範子  
しゃぼん玉四方を映し  
飛び立てり 八百子  
かたくりの花反りかへる  
谷深き 美代子

第三句集の中より、私の  
好きな佳句を拾わせて戴き  
ました。

無碍智俳句の会の皆さ  
ん、これからも楽しく句会  
を盛り上げて行つてくださ  
い。益々のご発展をお祈り  
致します。

り「ためになるお話」をお聞  
きし、奥様からはお寺の料  
理の話詳しく伺うことが  
出来ます。会話はのどかに  
和気あいあいと続きます。  
無碍智俳句の会は、お寺の  
俳句会ですので、お寺の行事  
などがよく詠まれます。戴  
いた「第三句集」にもお寺  
を詠んだ句がありました。

焦らずに却下照顧ぞ  
春近し 悠 萌  
法灯をしかと受け継ぎ  
二月尽 マリ子  
老猫の聴き入るチェロや

## お別れ

(平成十八年一月～二月末)

徳橋シズ様 一月十七日寂

長岡市神田町

小林リツ様 二月五日寂

長岡市昭和

ご冥福をお祈り申し上げます。



# KAKA笑の会 總持寺見聞録



師走のある日曜日、KAKA笑の会有志数名は大山總持寺を訪問し、信心深さを確認するべく（事実は小金山老師の精進料理を味わうのが目的！）新幹線の人となったのでした。

京浜東北線の鶴見駅を下車、商店街を抜けると、広い参道が見えてきます。枝ぶりのいい樹々に導かれ巨大な三門をくぐると、總持寺の壮大且つ厳肅な伽藍が目前に広がって圧倒されます。玄関の中へ入ると、左手にお経や仏具などを扱うショップ（筆者も娘に数珠

を購入）。右手には總持寺オフィスルームがあり、十数名のお坊さんがパソコンに向かっております。禅（ZEN）を、曹洞宗を、地球の主要都市へインターネッで送受信している国際的な窓口でもあるのです。

係のお坊さんの案内で、長い廊下を渡り、大僧堂へと急ぎます。そこは、昼なお暗く、大勢の修行僧が坐蒲という座布団状の布を敷いて坐禅の修行をしております、仏の道を極めることの厳しさを垣間見た思いがしました。ある部屋では、ちょうど食事の時間になり、配膳係の僧がごはんを盛り付けて回っていました。次にたくわん、味噌汁の係が廻ってゆきます。「うーん、とてもたまらん！」グルメ（つまり食いしん坊）の多いKAKA笑の会有志数名は、一日と続けられない修行の厳しさに、情けないやら、幸福感を味わうやら…。



広大な山内を回るうちに、情けなさもピークに達し、ついにたどりに着いた朱塗りのお膳の並ぶ明るい部屋で、早々に席に着く有志数名の姿。（写真参照）

そして、椀のふたを開ければ、そこは小金山泰玄典座老師のミラクルワールドが。視覚で、嗅覚で、そして味覚で口の中いっぱい広がる「おいしい！」薄味の野菜の煮物、ゴマ豆腐、茶碗蒸し、がんもどき。有志数名はありがたく手を合わせ、口を合わせて大木山總持寺の真髓を幸せいっばい味わったのでした。

## 旬歌 愁灯 [その九]

# 仰げば尊し

加瀬由紀子

三月の声を聞くと、降り続いた雪もようやく衰えを見せる。マルバマンサクに春を告げる黄色い星状の花が咲くのももうじきだ。

年度末、卒業式、合格発表とあわただしい月でもある。「仰げば尊し、わが師の恩、教えの庭にもはや幾年」今は歌われることもなくなつた歌詞だが、いちばん三月にふさわしい歌だと思ふ。

小学校五年のとき、卒業生に送辞を読む役になった。式の前々日から感冒の高熱で、壇上では書状を持つこともできず、アドリブでしのいだ私に「よく暗記してきたねえ」とほめた教師。紅白の幕もかすんで見えなかった当人の気も知らずに。

高校の卒業式当日は、受験した大学で合格発表を見ていた。当時はわざわざ東京まで見に行かなくてはならなかったのである。御茶

ノ水駅で、同級生多数と遭い、卒業式に出ているのは留年すれすれ組だけだ、と笑い合ったりした。おまけにデモ隊はいるは、機動隊はいるは、で騒然とした卒業式当日をかなりの団塊の世代は経験したのだ。

わが娘の小学校の卒業式は感動的だった。担任の女性教師が涙をいっばいためで、「お母さん方、もう少しの時間、私の子どもたちとして抱っこさせてください！」とあいさつされた。十数年経った今でも、子どもたちがこの教師を慕って集まるのもうなづける。

小学校の機関紙「よつば」二〇五号の編集後記に書いた、私の詩を披露して新たな門出に添えよう。

「旅立つ春に」

入学式の帰りに 廻旋塔に  
どうしても乗せてほしいと  
君は せがんだ  
いつか一人で 好きにだけ

うんと上手に乗れるようになるよ 羨望と自信に  
君は 頬を赤らめた

廻旋塔は 夏の陽に燃える  
ような熱さで  
時雨の近い頃にはぞっとする冷たさで  
君を てこずらせた

いつのまにか 君は  
小さな子が来ると乗りやすく  
傾けてやったり  
逆に 恐怖との限界ぎりぎりの  
スピードを 繰り出せる  
ほどになつていた

中学には 廻旋塔はもうない  
いかもしれない でも  
君の前には もっと大きな  
廻旋塔があつて  
それを動かすのは君自身だ

今 校庭の隅で  
ひっそりと廻旋塔は  
春を待っている  
新しい物語のはじまる日を。

知ることがむつかしいのではない。いかにその知っていることに身を処するかがむつかしいのだ。



# 何かへんです



ペコのひとりごと



雪解けの音が心地良いハ  
ーモニとして聞こえる時  
節になってきました。お寺  
もすっかりきれいに出来上  
がりましたが震災前よりも  
広くなったので大変です。  
新しいところと今までの  
所は戸で仕切られています。  
お客さまが来られない時は  
戸が閉まっています、そ

うでない時は開け放してあ  
る事が多く、陽がさすと明  
るくてとても暖かそうな廊  
下がみえるので、私も点検  
をしようと歩き出すのです  
が、たいてい途中まで行く  
とお母さんに見つかってし  
まい「ペコはそっちへ行っ  
てはダメよ」と連れ戻され  
てしまうので、まだゆっく

り点検すら出来ません。  
それと一つだけこの改修  
工事でおこりました。今まで  
障子戸だったところが板戸  
になってしまったのです。  
障子戸の時は猫穴が開いて  
いたのですが、こんどはプラ  
スチックで出来た「猫くぐ  
り」とかいうのが板戸の隅  
についてはいるのですが、  
私にはどうして入ったら良  
いのかわかりません。そこ  
で戸を開けて入るのです  
が、冬の寒いさ中「ペコは  
開けても閉めないからお部  
屋が寒くなるでしょ！ち  
やんとくぐって来なさい。  
もう年だから新しいことを  
覚えられないのかしら…」  
とお母さんの声が聞こえて  
きました。そんな毎日が続  
き、さすがに住職も困ったの  
か、プラスチックの猫くぐ  
りを上に持ち上げてガムテ  
ープで止め、その下に以前

のような障子のひらひらな  
猫穴を作ってくれました。  
それと最近の私は特に住  
職（夜はお母さんの部屋に  
は入れてもらえないので  
す）の睡眠を妨げてるよう  
です。と言うのは昼間寝て  
いる私は夜になるとお腹が  
空いて物凄いい声でないた  
り、廊下をバタバタと走り  
まわるらしいのです。「ペ  
コには夕方あまり早くご飯  
を食べさせないでね、さも  
ないと夜中に起こされてた  
まったものじゃない！」と  
言う声が聞こえてきました。  
私はそんなつもりない  
けれど困ったものです。で  
も私の食事は細かく粉みた  
いに砕いてあるし、お水も  
いつもふんだんに置いてあ  
るのでやつぱり私は幸せな  
んですね！ にゃーん

## 編集 雑感

雪、雪、雪、今  
冬も大雪、そして  
異常寒波に見舞わ  
れ、いささかうんざりと言  
った状況だった。これも地  
球温暖化が一因と聞き、み  
んなで環境問題を改めて考  
え直す時期に来たのではな  
いでしょうか。

今、この編集雑感に何を書  
こうか悩んでいる時、少し  
ではあるが、春の足音を感  
じ取れるような気配がして  
来ました。雪が消え、春の  
訪れを待ち望んでいるとい  
うのが、今の私の心境です。

二月十三日、今年初の編  
集会議が安善寺の新築され  
た客殿で行われ、会議の前  
に龍弘住職より内部を案内  
していただき、その内には  
坐禅堂もあり、また会議の  
後

のお斎場として使用できる  
部屋等々、いたる所でみな  
さんが使いやすいように考  
え、配慮されており、関心  
しきりだった。  
季刊紙の第三十一号発行  
に紹介されている通り、皆様  
方も大いに利用されること  
をお勧めしたいと思います。

会議の後、その新しくな  
った所で奥様のおいしい手  
料理を頂き、なかなか手に  
入らないお酒も飲むことが  
でき（季刊紙の編集委員の  
特権です）、すっかり酔っ  
てしまいタバコを吸う私に  
は新しい畳を間違つて焦が  
したりしないか、それだけ  
を気にしながら楽しい時間  
を過ごさせていただき、感  
謝、感謝でした。今回の編  
集雑感の担当でなければも  
つと楽しめたのかも？？

編集委員の特権もありま  
すが、その後の苦労もある  
のです。（編集委員が増え  
るといいですね）  
この季刊紙を発刊するに  
は皆様方の協力なしには出  
来ません。ぜひこれからも  
数多くの投稿をお願い致し  
ます。  
小林善秋

### お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆  
さまと、ごいっしょに誌面をつ  
くりながら、コミュニケーション  
を深めたいと思います。  
ハガキまたはお手紙、ファック  
スなどで、お気軽にお便りをお  
寄せください。お待ちしております。

#### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、怒ったこと。

第三十四号、夏号は平成十八年七月八日（土）発行予定です。